

平成28年度主要施策の成果のあらまし

区は、大田区基本構想で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、平成26年3月に「おおた未来プラン10年（後期）」を策定し、「地域力」と「国際都市」をキーワードに、子育て、保健・福祉、まちづくり、産業振興、地域力、環境など、あらゆる分野の施策を推進しています。ここでは、これらの主要施策の平成28年度の取り組み内容のまとめをご案内するとともに、特に主要な事業について、いくつかその実施状況をご紹介します。

1 「おおた未来プラン10年（後期）」における個別目標ごとの事業費（平成28年度決算額）等のまとめ

個別目標	主要施策数 (主な事業数)	取り組みの数	事業費 (平成28年度決算額)
1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします	28	61	31,141,308千円
1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくりま	25	61	2,692,308千円
1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくりま	11	25	1,925,900千円
2-1 水と緑を大切にし、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現しま	25	63	11,892,628千円
2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創りま	13	19	807,535千円
2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造しま	18	42	1,141,894千円
3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現しま	35	65	633,604千円
3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です	10	20	1,597,817千円
3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めま	10	28	4,563,427千円
合計	175	384	56,396,421千円

※事業費については、個々の事業ごとに決算額を千円未満四捨五入し、集計しています。

【参考】
未来プラン10年（平成27年度）
主要施策数（主な事業数）：175
取り組みの数：391

2 主要な事業の実施状況

●個別目標 1-1

未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

増加する保育ニーズに対応するため、新たに認可保育所や小規模保育所など17の保育施設を整備し、保育サービス定員を717人拡充しました。うち2施設については、事業所内保育所として整備し、地域の子どもが利用できる地域枠を設けました。

ICTを活用した授業の本格実施に向けて、全区立中学校の普通教室及び特別教室にLAN環境を整備しました。合わせて、可動式の電子黒板等の設置、全学年分の数学、理科のデジタル教科書配備など、ICT設備の充実を図りました。



電子黒板を使用した授業

●個別目標 1-2

誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくりま

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等を視野に入れ、さらなる「ユニバーサルデザインのまちづくり」を進めるため、ソフト分野（窓口サービス）とハード分野（案内誘導サイン及び視覚障害者誘導用ブロック）を一体としたガイドラインを策定しました。策定にあたっては、区民団体等の協力を得て、ガイドライン区民検討会及び分野別の専門部会等で検討を重ね、区民意見を反映させました。

（仮称）勝海舟記念館の整備に向け、施設及び展示の実施設設計が完了しました。また、勝家が4,000点を超える海舟ゆかりの資料を所有していることが判明し、購入又は寄託を受け、整理・研究を進めることとしました。



（仮称）勝海舟記念館（旧清明文庫）

●個別目標 1-3

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくりま

子育て・介護分野への元気高齢者の就労を支援するため、技能の習得と事業所とのマッチングを一体的に行う「元気高齢者就労サポート事業」を、23区で初めて開始し、体験セミナーや講習会を実施しました。

地域包括ケアシステムの構築に向け、田園調布地区及び嶺町地区においてシニアステーション事業を開始しました。地域包括支援センターと旧老人いこいの家を活用した活動施設を一体的に運営することで、高齢者の元気維持・介護予防から介護が必要となった場合まで、切れ目のない支援を提供することが可能となりました。



介護予防教室「いきいきシニア毎週体操」の様子

●個別目標 2-1

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

平成 28 年4月に交通政策審議会から国土交通大臣に提出された答申で、「新空港線」*が高い評価を得ました。このことを受け、関係者(国、東京都及び鉄道事業者)間で合意形成に向けた話し合いを行い、事業計画、需要予測・収支採算性等の課題について整理が図られました。

区が管理する橋梁の中で、災害時の物資輸送の要となる緊急道路障害物除去路線や鉄道を跨ぐ橋梁など、防災上重要となる橋梁について、計画的に架替や耐震補強整備を行い、災害に強いまちづくりを推進しました。

※ JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間を結ぶ鉄道路線



耐震補強を施した本村橋

●個別目標 2-2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

羽田空港跡地に「新産業創造・発信拠点」を形成するため、施設整備に係る事業者向け説明会や事業者ヒアリングを実施し、第一期事業の募集要項を公表しました。また、道路や交通広場等の公共施設整備に向けて、独立行政法人都市再生機構が、国土交通省から土地地区画整理事業の事業認可を取得しました。

平成 29 年3月に開催した区制 70 周年記念式典において、地域の担い手である区民の皆様とともに、「地域力」を結集して輝かしい未来に向かってはばきたいという思いを込めて、「国際都市おおた宣言」を行いました。



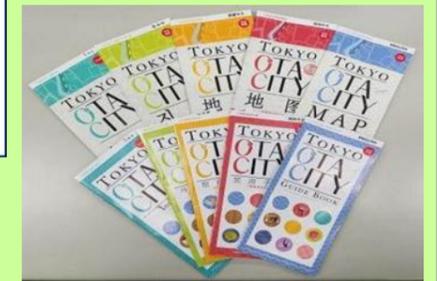
区制 70 周年記念式典における「国際都市おおた宣言」

●個別目標 2-3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

大田区の高度で多様なものづくりの力によって、リオデジャネイロパラリンピック期間中にウィルチェアラグビー日本代表選手が使用するローラートレーナーを開発しました。このローラートレーナーは、スポーツ庁から委託された事業を大田区企業にマッチングし、製作されたものです。今後も、障害者スポーツの競技力向上に寄与していきます。

今後さらに増加が見込まれる訪日外国人に大田区を知ってもらうため、(一社)大田観光協会や関係機関と連携し、区の観光紹介用パンフレットをリニューアルしました。このパンフレットは日本語版と外国語版で製作し、WEB等と組み合わせた効果的な情報発信を行いました。



ローラートレーナー / 大田区観光紹介用パンフレット(外国語版)

●個別目標 3-1

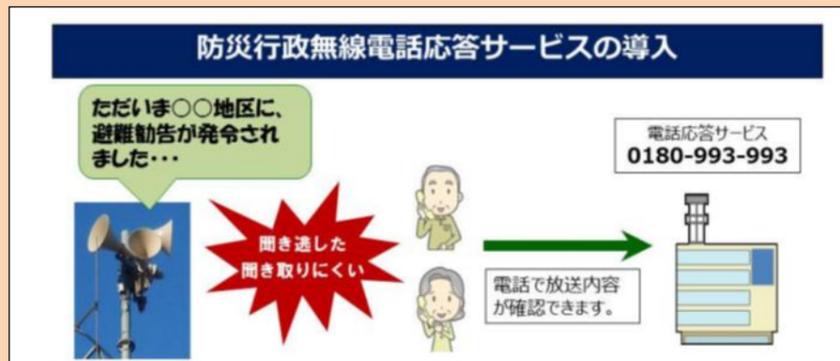
地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

「こどもSOSの家マップ」(区立小学校単位の 59 種類)を作成し、事業協力員へ配付しました。また、コンビニエンスストアとの連携を拡大し、区内の 121 店舗が新たにこどもSOSの家に加入しました。

防災行政無線の放送を聞き逃した場合にも、放送直後から電話で放送内容が確認でき、原則、回線に限りがないことから同時に多数の区民から問い合わせがあっても対応可能な防災行政無線電話応答サービス*を導入しました。

高齢者の振り込め詐欺被害を防止するための緊急対策として、区内の4警察署(大森・蒲田・池上・田園調布)と連携し、電話機に取り付ける「自動通話録音機」の貸出を開始しました。

※電話応答サービスの番号(0180-993-993)に電話すると、自動録音した直近の放送内容をご自宅等から聞くことができるサービス



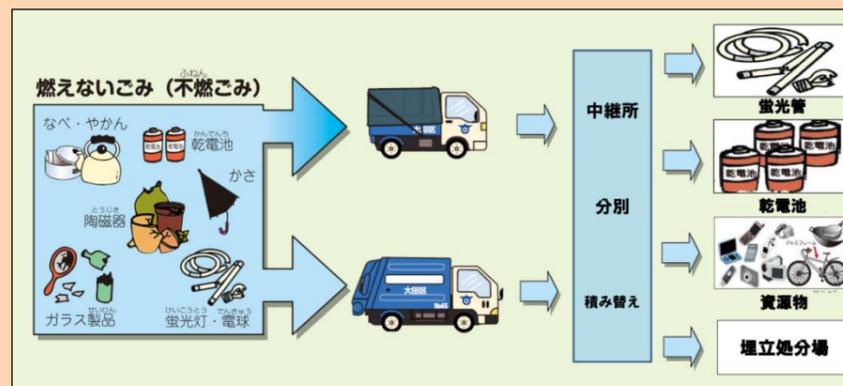
防災行政無線電話応答サービスのイメージ

●個別目標 3-2

私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

水銀に関する水俣条約を踏まえ、区民の安全・安心を確保するため、不燃ごみ中の蛍光灯等の水銀含有物の適正処理及び小型家電等の資源化を平成 30 年度の区内全域実施に向け一部地域で開始しました。

また、新たに区施設 16 か所に使用済小型家電の回収ボックスを増設し、23 区最多の 42 か所で拠点回収を行うなど、中央防波堤埋立処分場の延命化及び循環型社会の構築に向け、一層のごみ減量、資源の有効利用及び環境負荷の低減に取り組みました。



不燃ごみに含まれる水銀含有物の適正処理及び資源物回収のイメージ

●個別目標 3-3

区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます

区ホームページにおける自動翻訳機能について、これまでの3か国語(英語、中国語、韓国語)に加え、新たにタガログ語、タイ語の自動翻訳機能を追加し、多言語化の拡大を図るとともに翻訳機能の精度を向上させました。

「大田区公共施設適正配置方針」を具現化するための方策等を示すものとして、「大田区公共施設等マネジメント 今後の取り組み」(以下「今後の取り組み」という。)を作成し、公共建築物及び道路等のインフラの管理に関する方針を定めるとともに、面的視点での地域別の施設整備の方向性を定めました。さらに「大田区公共施設白書」「大田区公共施設等適正配置方針」「今後の取り組み」の3点を合わせ、インフラを含む区の公共施設全体について、総合的かつ計画的な管理を行っていくための基本的な枠組みとなる「大田区公共施設等総合管理計画」と位置づけました。



志茂田福祉センターとの複合施設として改築した志茂田中学校